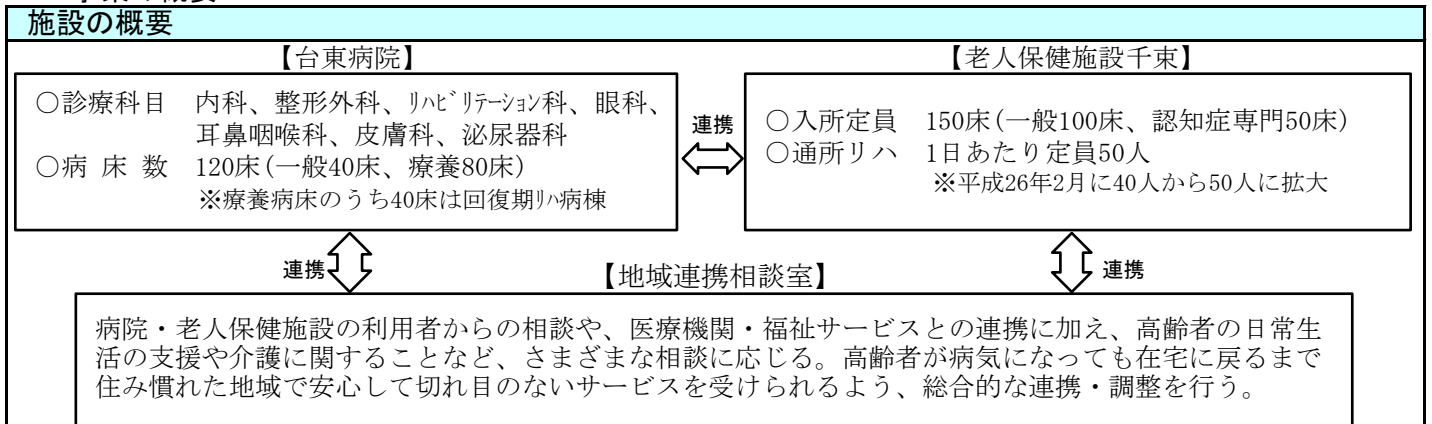


**平成30年度 台東区立台東病院及び老人保健施設千束 運営評価表**  
(平成29年度実績の評価)

施設名	台東区立台東病院・老人保健施設千束
事業開始年度	平成21年度
開設者	台東区（病院所管課：健康部健康課、老健所管課：福祉部高齢福祉課）
指定管理者	公益社団法人地域医療振興協会
評価の目的	サービスの提供の効果等について、記録、測定又は分析し、一定の基準に照らして客観的に評価・検証することにより、業務・運営等を継続的に改善させる。
評価内容	○新台東病院等整備基本計画に定める基本理念を的確に反映しているか。 ○基本協定書に基づき、保健・医療・福祉機能とその役割を適切に果たしているか。 ○地域に開かれた施設になっているか。
評価項目	①役割・機能、②効率性・経済性、③計画性・改善状況等

**1 事業の概要**



施設の基本理念	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高齢者が住み慣れた地域で療養できるよう、高齢者の慢性疾患に対応する病院と在宅復帰に必要な入所施設を一体的に確保します。</li> <li>○ 高齢者がいつまでも自分らしく、安心した在宅生活を送ることができるよう、保健・医療・福祉サービスを提供します。</li> <li>○ 高齢者が施設や在宅で必要な保健・医療・福祉サービスを円滑に利用できるよう、サービスの担い手との連携を積極的に推進します。</li> <li>○ 安心して子育てができるよう、医療の面から支援します。</li> <li>○ 快適な療養環境や質の高いサービスを効率的に提供します。</li> <li>○ 『運営の透明性』、『区民に対する説明責任』を確保し、上記の理念が適切に果たされていることを区民の視点に立って評価・検証します。</li> </ul>

基本方針	
台東病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合医を中心としたチームによる医療を提供します。</li> <li>○利用者本位で、満足度の高い医療を提供します。</li> <li>○関係機関との連携を推進し、安心して在宅生活を送れるよう、医療を提供します。</li> <li>○医療従事者の育成と資質の向上に努めます。</li> <li>○区の小児初期救急医療のしくみを補完します。</li> <li>○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。</li> </ul>
老健千束	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良質で包括的なサービスを提供します。</li> <li>○利用者の人格及び意思を尊重し、快適で質の高い療養・介護環境を提供します。</li> <li>○地域の福祉関連機関との連携のもと、円滑な在宅復帰を目指します。</li> <li>○病院に併設されていることの利点を最大限に活かします。</li> <li>○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。</li> </ul>

## 2 指定管理者の運営理念等

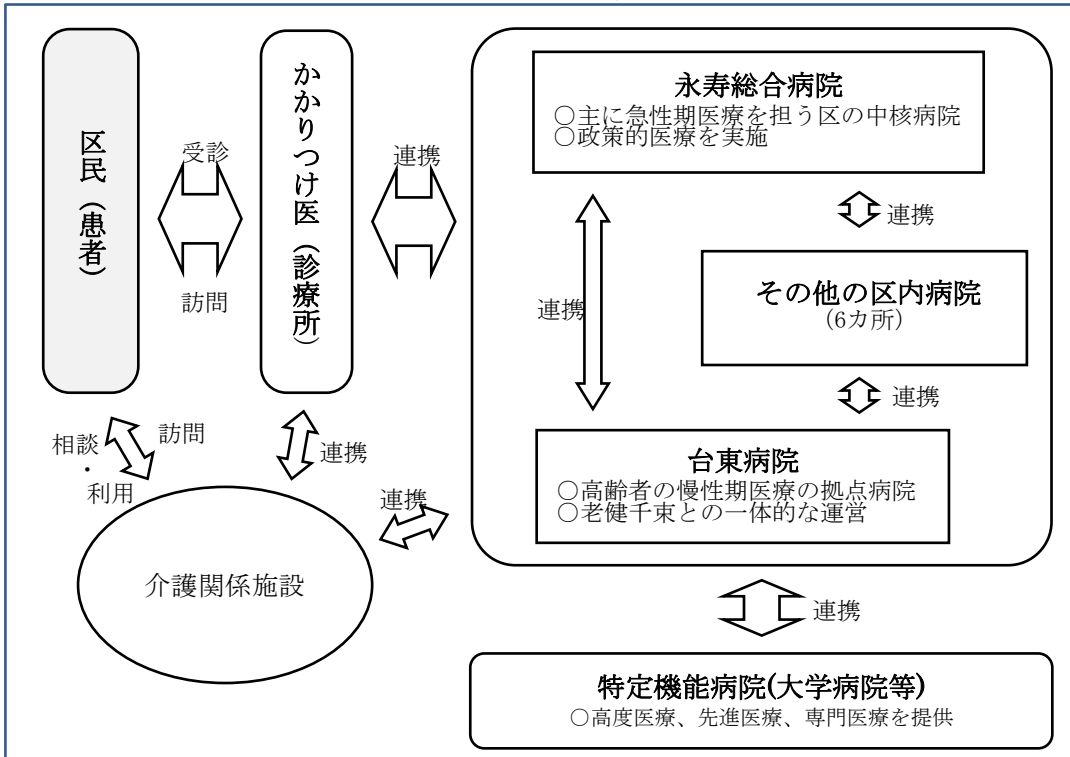
### 運営理念

『ずっとこのまちで暮らし続けたい』を応援します

### 運営基本方針

- 高齢者医療に力をいれます
- 在宅医療を支援します
- まずは受け入れるという姿勢を持ちます
- 地域と連携してサービスを提供します
- 医療に恵まれない地域の支援を行います

### < 医療機関等の連携体制 >



### 3 事業の現況とその推移

#### (1) 経営の状況

(1,000円未満を四捨五入、単位：千円)

区分		27年度	28年度	29年度	前年度比	主な計上科目	
台東病院	収益	医業収益	1,933,253	1,942,504	2,026,018	83,514	入院・外来収益等
		医業外収益	154,927	134,669	127,908	△ 6,761	指定管理料・売店収益等
		合計	2,088,180	2,077,173	2,153,926	76,753	
		(うち指定管理料)	44,280	44,280	44,280	0	指定管理料
	費用	医業費用	2,042,329	2,053,293	2,105,905	52,612	給与費・材料費・委託費等
		医業外費用	68,447	60,661	69,779	9,118	売店運営費用
		合計	2,110,776	2,113,954	2,175,684	61,730	
	損益	医業損益	△ 109,076	△ 110,789	△ 79,887	30,902	—
		医業外損益	86,480	74,008	58,129	△ 15,879	—
合計		△ 22,596	△ 36,781	△ 21,758	15,023		
老健千束	収益	事業収益	899,548	880,323	923,205	42,882	入所・通所リハ収益等
		事業外収益	5,190	5,142	5,609	467	患者外給食委託費等
		合計	904,738	885,465	928,814	43,349	
		(うち指定管理料)	0	0	0	0	—
	費用	事業費用	776,770	787,032	811,390	24,358	給与費・材料費・委託費等
		事業外費用	21,552	14,055	26,000	11,945	患者外給食委託費等
		合計	798,322	801,087	837,390	36,303	
	損益	事業損益	122,778	93,291	111,815	18,524	—
		事業外損益	△ 16,362	△ 8,913	△ 20,391	△ 11,478	—
合計		106,416	84,378	91,424	7,046		
全体	収益	事業収益	2,832,801	2,822,827	2,949,223	126,396	
		事業外収益	160,117	139,811	133,517	△ 6,294	
		合計	2,992,918	2,962,638	3,082,740	120,102	
		(うち指定管理料)	44,280	44,280	44,280	0	
	費用	事業費用	2,819,099	2,840,325	2,917,295	76,970	
		事業外費用	89,999	74,716	95,779	21,063	
		合計	2,909,098	2,915,041	3,013,074	98,033	
	損益	事業損益	13,702	△ 17,498	31,928	49,426	
		事業外損益	70,118	65,095	37,738	△ 27,357	
合計		83,820	47,597	69,666	22,069		

#### 収支の概要

台東病院	<p>前年度と比べ、医業収益は約8,351万円(4.3%)増の20億2,602万円、医業費用は約5,261万円(2.6%)増の21億591万円で、医業損益は約3,090万円増の7,989万円の赤字となった。</p> <p>医業外収益は約676万円(5.0%)減の1億2,791万円(指定管理料4,428万円を含む)、医業外費用は約912万円(15.0%)増の6,978万円で、医業外損益は約1,588万円(21.5%)減の5,813万円の黒字となった。</p> <p>この結果、台東病院全体の損益は約1,502万円増の2,176万円の赤字となった。</p>
老健千束	<p>前年度と比べ、事業収益は約4,288万円(4.9%)増の9億2,321万円、事業費用は2,436万円(3.1%)増の8億1,139万円で、事業損益は約1,852万円(19.9%)増の1億1,182万円の黒字となった。</p> <p>事業外収益は約47万円(9.1%)増の561万円、事業外費用は約1,195万円(85.0%)増の2,600万円で、事業外損益は約1,148万円(128.8%)減の2,039万円の赤字となった。</p> <p>この結果、老健千束全体の損益は約705万円増の9,142万円の黒字となった。</p>

(2) 運営の状況

① 役割・機能

【台東病院】

区分		27年度	28年度	29年度	前年度比	備考
体制	職員数	145.8人	148人	152.1人	4.1人	○年度末を基準とする ○常勤医師以外は常勤換算人数 ○職員数合計は医師、看護・介護職員、リハビリ職員の合算
	医師	18.8人	17.0人	17.0人	0.0人	
	常勤医師	12人	9.5人	10.5人	1.0人	
	非常勤医師	6.8人	7.5人	6.5人	△1.0人	
	看護・介護職員	100人	103人	102.6人	△0.4人	
	リハビリ職員	27人	28人	32.5人	4.5人	
入院	病床利用率	93.6%	91.6%	91.8%	0.2%	病床利用率＝入院延患者数÷延病床数×100
	一般	90.2%	88.9%	89.2%	0.3%	
	回復期リハ	93.9%	92.5%	92.5%	0.0%	
	療養	96.7%	93.4%	93.8%	0.4%	
	延べ入院患者数	41,115人	40,117人	40,226人	109人	平成29年度に新たに入院された患者数
	50歳代以下	12.5%	10.8%	4.6%	△6.2%	
	60歳代	13.2%	10.4%	8.7%	△1.7%	
	70歳代	20.5%	20.4%	25.4%	5.0%	
	80歳代	36.4%	38.4%	40.9%	2.5%	
	90歳代以上	17.4%	20.0%	20.5%	0.5%	
	新入院患者数	1,078人	1,145人	1,085人	△60人	延入院患者数÷{(新入院患者数+退院患者数)÷2}
	一般	891人	933人	865人	△68人	
	回復期リハ	149人	159人	136人	△23人	
療養	38人	53人	84人	31人		
平均在院日数	38.1日	34.9日	37.0日	2.1日	台東区民の占める割合	
一般	17.0日	16.4日	17.3日	0.9日		
回復期リハ	69.3日	57.9日	68.0日	10.1日		
	療養	137.5日	111.3日	102.6日	△8.7日	1年間分
	台東区民の占める割合	85.7%	87.4%	84.9%	△2.5%	
	回復期リハ病棟の在宅復帰率	80.8%	85.9%	80.1%	△5.8%	
外来	延べ患者数	80,761人	76,713人	74,957人	△1,756人	延べ患者数÷外来診療日数
	1日平均患者数	274.7人	261.8人	255.8人	△6.0人	初診料を算定した患者数
	初診患者数	12,720人	11,684人	11,306人	△378人	初診患者数÷延患者数×100
	新患率	15.8%	15.2%	15.1%	△0.1%	
	台東区民の占める割合	88.2%	88.4%	87.7%	△0.7%	
	初期救急患者数	960人	1,020人	1,032人	12人	
	救急車受入数	340人	308人	332人	24人	
	来院患者数	620人	712人	700人	△12人	

【老健千束】

区分		27年度	28年度	29年度	前年度比	備考
体制	職員数	85.5人	86.8人	84.2人	△2.6人	○年度末を基準とする ○全て常勤換算人数
	医師	1.5人	1.5人	1.5人	0.0人	
	介護・看護職員	75.5人	76.8人	74.2人	△2.6人	
	リハビリ職員	8.5人	8.5人	8.5人	0.0人	
入所	入所利用率	95.4%	91.6%	91.8%	0.2%	延入所者数÷延ベッド数×100
	1日あたり短期入所者数	8.5人	9.9人	9.6人	△0.3人	延短期入所者数÷365日
	延べ入所者数	52,401人	50,166人	50,261人	95人	延べ入所者数は長期入所と短期入所(ショートステイ)の合算
	60歳代以下	3.0%	1.9%	1.0%	△0.9%	
	70歳代	6.6%	10.0%	8.1%	△1.9%	
	80歳代	44.1%	44.1%	44.3%	0.2%	
		90歳代以上	46.3%	44.0%	46.6%	2.6%
	平均在所日数	316.3日	264.2日	225.6日	△38.6日	入所延べ日数÷{(新規入所者数+退所者数)÷2} ※1年間分
	回転率	9.6%	11.5%	13.4%	1.9%	月間平均暦日数÷平均在所日数×100
台東区民の占める割合	99.9%	99.9%	99.9%	0%		
在宅復帰率	45.7%	28.6%	36.9%	8.3%	退所先が自宅やグループホーム等の割合	
通所	1日あたりの利用者数	42.3人	42.5人	43.0人	0.5人	延利用者数÷通所営業日数
	台東区民の占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	0%	

【連携等】

区分		27年度	28年度	29年度	前年度比	備考	
地域連携相談室	職員数	8.0人	9.0人	9.0人	0人	全て常勤換算人数	
	社会福祉士	2.0人	2.0人	2.0人	0人		
	支援相談員	2.0人	2.0人	2.0人	0人		
	介護支援専門員	2.0人	2.0人	2.0人	0人		
	事務員	2.0人	3.0人	3.0人	0人		
	相談件数	1,703件	1,789件	1,931件	142件	主たる内容により区分	
	入院（一般）	953件	933件	865件	△68件		
	入院（回復期リハ）	302件	317件	355件	38件		
	入院（療養）	142件	157件	155件	△2件		
	入所	199件	202件	354件	152件		
通所	107件	180件	202件	22件			
紹介	入院患者	537人	616人	547人	△69人	○検査依頼を除く、医師の紹介状（診療情報提供書）を持参した患者数 ○紹介率＝（紹介状持参患者数＋救急患者数）÷初診料算定患者数 ＝ 16.1 %	
	一般	366人	415人	345人	△70人		
	回復期リハ	138人	149人	125人	△24人		
	療養	33人	52人	77人	25人		
	診療所からの紹介（再掲）	181人	173人	150人	△23人		
	外来患者	888人	929人	938人	9人		
	病院から	438人	474人	428人	△46人		
診療所から	417人	433人	489人	56人			
施設から	33人	22人	21人	△1人			
逆紹介	入院患者	407人	404人	376人	△28人		○診療情報提供料を算定した患者数（返送患者を含む） ○逆紹介率＝診療情報提供料算定患者数÷初診料算定患者数 ＝ 17.9 %
	一般	217人	211人	194人	△17人		
	回復期リハ	132人	136人	111人	△25人		
	療養	58人	57人	71人	14人		
	診療所への逆紹介（再掲）	189人	160人	150人	△10人		
	外来患者	1,156人	1,226人	1,314人	88人		
	病院へ	873人	897人	955人	58人		
	診療所へ	162人	213人	281人	68人		
施設へ	5人	15人	15人	0人			
宛名なし等	116人	101人	63人	△38人			
返送	入院患者	159人	138人	114人	△24人	診療情報提供書を持参した患者のうち、入院後、紹介元医療機関等に返送（診療情報提供料を算定）した患者数	
	一般	88人	72人	59人	△13人		
	回復期リハ	53人	46人	33人	△13人		
	療養	18人	20人	22人	2人		
	診療所への返送（再掲）	101人	84人	73人	△11人		
入退院患者・入退所者の経路	新入院患者	自宅から	50.2%	46.3%	50.2%	3.9%	新入院患者の総数は、 27年度1,078人、28年度1,145人、29年度1,085人
		診療所からの紹介	16.8%	15.1%	13.8%	△1.3%	
		他病院からの紹介	23.6%	26.7%	25.5%	△1.2%	
		福祉施設等から	5.0%	6.5%	7.5%	1.0%	
		老健千束から	4.4%	5.4%	3.0%	△2.4%	
	退院患者	自宅へ	45.4%	43.8%	48.2%	4.4%	退院患者の総数は、 27年度1,084人、28年度1,151人、29年度1,090人
		診療所への逆紹介	17.8%	13.9%	13.7%	△0.2%	
		他病院への転院	7.1%	7.8%	6.3%	△1.5%	
		他病院の外来への紹介	5.6%	4.0%	4.8%	0.8%	
		福祉施設等へ	7.1%	9.6%	9.7%	0.1%	
		老健千束へ	7.9%	8.5%	7.9%	△0.6%	
		看取り	9.1%	12.4%	9.4%	△3.0%	
	新入所者	自宅から	35.7%	26.0%	36.2%	10.2%	新入所者の総数は、 27年度168人、28年度177人、29年度235人
		福祉施設等から	3.6%	2.3%	2.6%	0.3%	
		台東病院から	45.8%	44.0%	36.2%	△7.8%	
		他の病院から	14.9%	27.7%	25.0%	△2.7%	
退所者	自宅へ	37.7%	20.3%	25.3%	5.0%	退所者の総数は、 27年度167人、28年度202人、29年度233人	
	福祉施設等へ	22.7%	31.2%	40.8%	9.6%		
	台東病院へ	20.4%	27.7%	13.7%	△14.0%		
	他の病院へ	5.4%	8.9%	8.2%	△0.7%		
看取り	13.8%	11.9%	12.0%	0.1%			
緊急一時病床利用者数	185人	200人	172人	△28人	うち在宅療養患者の受入は60人		
退院前カンファレンス件数	84件	197件	218件	21件	多職種による検討会の実施件数		
訪問リハビリテーション延利用者数	2,480件	2,472件	2,226件	△246件	平成23年2月より実施		



## ②経営分析

区分		27年度	28年度	29年度	前年度比	備考	
台東病院	経常収支比率	98.9%	98.3%	99.0%	0.7%	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	2.1%	2.1%	2.0%	△0.1%	指定管理料÷総費用×100	
	医業収益に対する職員給与費比率	71.6%	73.0%	71.1%	△1.9%	職員給与費÷医業収益×100	
	医業収益に対する委託費比率	5.6%	5.1%	5.8%	0.7%	委託費÷医業収益×100	
	医業収益に対する材料費比率	14.1%	14.4%	14.6%	0.2%	材料費÷医業収益×100	
	病床利用率	93.6%	91.6%	91.8%	0.2%	入院延患者数÷延病床数×100	
	1日外来患者数	274.7人	261.8人	255.8人	△6.0人	延患者数÷外来診療日数	
	入院患者1人1日あたり診療収入	29,991円	31,544円	33,471円	1,927円	入院収益÷入院延患者数	
	外来患者1人1日あたり診療収入	6,555円	6,723円	6,962円	239円	外来収益÷外来延患者数	
	医師1人1日あたり診療収入	272,032円	291,807円	338,013円	46,206円	(入院収益+外来収益)÷年延医師数(看護・介護職員数)	
	看護・介護職員1人1日あたり診療収入	51,448円	45,530円	50,371円	4,841円		
	CT	稼働率	76.5%	84.3%	56.2%	-	稼働率=検査件数÷(1日あたり検査可能件数(20件)×外来診療日数)×100 *28年度までは検査可能件数12件
		検査件数	2,698件	2,965件	3,295件	330件	
		うち検査依頼受付件数	252件	289件	305件	16件	
MRI	稼働率	65.4%	66.7%	75.4%	8.7%	稼働率=検査件数÷(1日あたり検査可能件数(12件)×外来診療日数)×100	
	検査件数	2,307件	2,345件	2,651件	306件		
	うち検査依頼受付件数	241件	245件	423件	178件		
老健千束	事業収支比率	113.3%	110.5%	110.9%	0.4%	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	0%	0%	0	0%	指定管理料÷総費用×100	
	事業収益に対する職員給与費比率	53.2%	56.2%	55.6%	△0.6%	職員給与費÷事業収益×100	
	事業収益に対する委託費比率	13.0%	13.5%	13.5%	0.0%	委託費÷事業収益×100	
	入所利用率	95.4%	91.6%	91.8%	0.2%	入所延患者数÷延ベッド数×100	
	1日通所利用者数	42.3人	42.5人	43.0人	0.5人	延利用者数÷通所運営日数	
	入所者1人1日あたり事業収益	14,427円	14,635円	14,663円	28円	入所収益÷入所延患者数	
	通所者1人1日あたり事業収益	10,863円	10,983円	10,739円	△244円	通所収益÷通所延患者数	

## ③計画的・改善状況等

区分		27年度	28年度	29年度	前年度比	備考
講演会開催数		17件	17件	17件	0件	街角健康教室、在宅ケア教室
その他区民向けイベント開催数		12件	12件	23件	11件	ミニコンサート、看護の日イベント、認知症カフェ
投書件数		58件	66件	52件	△14件	
	謝意	23件	28件	19件	△9件	
	助言	13件	8件	6件	△2件	
	苦情	22件	30件	27件	△3件	

### 主な意見と対応

- 【謝意】○ 老健8階に入所中だが、レクリエーションで、外食に連れて行って頂いた。食後浅草までのドライブと、施設の方々の多くの心配りに支えられての幸せな時間に感謝の気持ちで一杯だ。  
○ 診察で親身に話を聞いて頂き回答も分かりやすく助かった。初めから聞いてもらえ良かった。
- 【助言】○ 外来で使用しているファイルの診察券が落ちやすいので工夫してほしい。  
⇒患者様の本人確認のため、お名前を伺った上で診察券の確認を行い、診療、検査をしている。診察券の紛失に不安な方については申し出に応じてテープによる診察券の固定などの対応を行うようにする。
- 【苦情】○ 予約しても待ち時間が長い。診察を丁寧にしているのなら仕方がないが。  
⇒予約であっても重症度や相談内容の複雑さ等によって診療時間が長くなり、結果的にお待ちすることもある。午前中は予約のない患者専用枠を設けて待ち時間を短くするよう努めている。体調が特に悪い等早めに診療を受ける必要がある場合はスタッフに声かけしてほしい。

## ④その他

### 居宅介護支援事業所千束（自主事業）

平成29年度より、従来の1名体制から2名体制に拡大したことにより、徐々に担当件数が増加していったが、一方で請求につながらないケース（入院中から介入するも在宅退院につながらなかったケース、ケアプランが居宅療養管理指導料のみや自費による福祉用具貸与のみのケース等）も増えたため、請求件数が月平均40.5名に留まった。（28年度月平均35.1名）今後、2名体制を維持しつつ、請求につながらないケースであっても必要に応じて介入するとともに、介護給付管理件数（請求件数）の増加に努めていく。

#### 4 評価

##### 【評価の段階】

A	目的・要求等を十分に満たしている状態
B	目的・要求等を概ね満たしている状態
C	目的・要求等に対し補う必要がある状態

#### (1) 役割・機能の評価

<b>①台東病院が慢性期医療を担う拠点病院として機能しているか ※医療連携については別途評価</b>	
【参考指標】入院患者、外来患者の実績(P4)など	
事業者 評価 A	根拠 前年度と比べ、新入院患者数が60人(5.2%)減の1,085人となったが、平均在院日数が病棟全体で2.1日(6.0%)増となったことで、病床利用率は91.6%から91.8%に上昇した。初期救急患者数は12人(1.2%)増の1,032人で、入院患者の約9割は70歳以上となった。外来患者数はやや減少したが、急性期病院からの回復期・慢性期病棟への受入や、在宅復帰へ向けた多職種による在宅での医療環境の調整、支援、それらに必要な訪問リハビリ、訪問看護の体制を整えており、慢性期医療を担う拠点病院として機能していたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 入院部門については、全病床の合計利用率は90%を、回復期リハ病棟の在宅復帰率は80%を超え、ともに堅調に推移している。外来部門については、患者数が減少したが、急性期病院からの受入や、多職種による調整、支援等による在宅復帰へ向けた体制を整えていることから、慢性期医療を担う拠点病院として機能していたと評価できる。

<b>②老人保健施設千束が在宅復帰に向けた入所施設として機能しているか ※地域との連携については別途評価</b>	
【参考指標】入所者の実績(P4)など	
事業者 評価 A	根拠 平成28・29年度と特別養護老人ホームの新規開設が続き、稼働率及び在宅復帰率が著しく低下し、一時は在宅復帰在宅療養支援機能加算(在宅復帰率30%以上、回転率5%以上)の算定要件を満たすことができなくなった。(病院から特養へ退院した場合は、在宅復帰者としてカウントされるが、老健から特養へ退所した場合は、在宅復帰者としてカウントされない為。)しかし、稼働率の上昇と在宅生活の支援の取り組みを継続し、在宅復帰率は前年度比8.3ポイント増の36.9%、回転率は前年度比1.9ポイント増の13.4%となった。平成29年6月には当該加算を再算定することができたため、在宅復帰に向けた入所施設として機能していたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 職員の取り組みにより、近隣の特別養護老人ホーム新規開設の影響を受けた前年度から、在宅復帰率、回転率ともに改善した。また、在宅復帰在宅療養支援機能加算についても再算定することができたことから、在宅復帰に向けた入所施設として機能していたと評価できる。

<b>③医療機関等との連携は適切に行われているか</b>	
【参考指標】医療連携の実績(P5)など	
事業者 評価 A	根拠 前年に比べ、新入院患者数の減少により紹介入院患者数は69人減の547人、逆紹介入院患者数は28人減の376人であったが、外来紹介患者数は9人増の938人で紹介率は0.2%増の16.1%、外来逆紹介患者数は88人増の1,314人で逆紹介率は3.9%増の17.9%であった。また、多職種連携による退院前カンファレンス件数は21件増の218件、他医療機関からの検査依頼件数はMRIが178件(72.7%)増の423件、CTが16件(5.5%)増の305件、内視鏡が5件(6.6%)増の81件であり、医療機関等との連携は適切に行われていると認識している。
協議会 評価 A	根拠 前年度と比べ、入院部門の紹介及び逆紹介患者数は減少したが、外来部門の紹介及び逆紹介患者数は増加している。また、多職種連携による退院前カンファレンス及び他医療機関からの検査依頼件数は増加していることから、連携は適切に行われていたと評価できる。

④台東病院と老人保健施設千束が連携しながら、互いの機能を効果的に発揮しているか	
【参考指標】入退所経路の実績(P5)など	
<b>事業者評価</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">A</div>	根拠 台東病院から老人保健施設千束への入所経路の割合は、昨年度の約44%から約36%に低下したが、これは自宅からの入所人数が増加したことによる、台東病院からの入所割合の減少である。実人数では、平成28年度が78名、平成29年度が85名であったため、昨年度と比較しても十分連携できていると考えている。 また、昨年度に引き続き、重症の方は療養病棟、軽症の方は老健で受入れるという取り組みを行うことで、療養病棟入院基本料1の施設基準を維持しており、複合施設の利点、互いの機能を効果的に発揮できたと認識している。
<b>協議会評価</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">A</div>	根拠 台東病院から老人保健施設千束へ移った方について、実人数は増加している。また、受け入れについての病院と老健の役割分担により、療養病棟入院基本料1の施設基準を維持し、診療報酬の確保につなげていることから、複合施設の利点、互いの機能を効果的に発揮していると評価できる。

⑤退院・退所後も、家族等の支援や在宅でのリハビリテーションの支援等により、在宅生活を支援しているか	
【参考指標】通所リハビリテーションの実績(P4)、訪問リハビリテーション延利用者数の実績(P5)など	
<b>事業者評価</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">A</div>	根拠 通所リハビリテーションの利用者延べ人数は、13,356人から13,427と微増している。また、昨年度に引き続き、看護師を常時配置し医療依存度の高い利用者の受入(中重度ケア体制加算届出)を行っている。 また、居宅介護支援事業所の介護支援専門員を1名増員するとともに、訪問看護もみなし事業を開始している。29年度より毎月認知症カフェも実施しており(参加者327人)、在宅生活を支援する体制を構築していると認識している。
<b>協議会評価</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">A</div>	根拠 通所リハビリテーションの延利用者数は増加しており、加算の届出につながる取り組みも行っている。また、介護支援専門員の増員や訪問看護の実施、認知症カフェを開催しており、在宅生活を支援していると評価できる。

【その他】適切な機能水準が満たされているか
平成26年2月に日本医療機能評価機構の病院機能評価(一般病院1)を受審し、平成26年5月2日に認定を取得した。評価項目ごと、機能や業務水準について評価するとともに見直しを行っている。



(2) 効率性・経済性の評価

①台東病院の施設・機器等を効率的に活用しているか	
【参考指標】経営分析結果(P6)など	
事業者 評価 <b>B</b>	根拠 施設については病床利用率が前年度比0.2ポイント増の91.8%、1日あたりの外来患者数が横ばいの255.8人であり、効率的に活用できたと認識している。 放射線機器については、前年度よりCTは330件増の3,295件、MRIも306件増の2,651件、うち他院依頼もCTが16件増の305件、MRIが178件増の423件となっており、前年度整備したホームページからの検査依頼用紙のダウンロードが出来る事も効果的であった。しかし、目標値(CT 5,860件、MRI 3,516件)に達していないため、件数の増加に努める必要があると認識している。
協議会 評価 <b>B</b>	根拠 施設については病床利用率の実績が堅調であり、効率的に活用することができていると評価できる。CT、MRIといった高額医療機器については、総検査件数、他院依頼件数ともに上昇しているが、目標件数に達していないため、検査件数の増加に取り組み、効率的に活用することが求められる。

②老人保健施設千束の施設等を効率的に活用しているか	
【参考指標】経営分析結果(P6)など	
事業者 評価 <b>A</b>	根拠 入所利用率は前年度比0.2ポイント増の91.8%、1日あたり通所リハ利用者数は前年度比0.5人増の43.0人であった。屋上を活用した園芸療法や、エントランスを使用した利用者作品展といった行事等にも昨年同様に取り組んでいる。また、ボランティアによるアロマセラピーも導入しており、地域住民の協力も得ながら効率的に施設等を活用していると認識している。
協議会 評価 <b>A</b>	根拠 入所利用率及び1日あたり通所リハ利用者数は、前年度に比べ増加している。また、共用スペースの利用や地域住民の協力による多様なリハビリテーションを実施しており、施設を効率的に活用していると評価できる。

③台東病院の事業運営の効率性は発揮されているか		※医業外収支は評価対象外
【参考指標】収支(P3)、経営分析結果(P6)など		
事業者 評価 <b>B</b>	根拠 28年度と比較し医業収益は4.3%増加したものの、医業費用も2.6%の増加となった。材料比率は0.2%増加の14.6%、給与比率は1.9%減少の71.1%、委託費は0.7%増加の5.8%であった。昨年度同様、設備関係費について経年劣化による修繕や新規備品の購入増加が見られ、今後も増加が見込まれる。また、給与費の定期昇給や人員確保に係る費用の増加も見込まれ、運営協議会においても給与比率改善のご意見があることから、今後も計画的な運用に努め、適正な経営に取り組む必要があると認識している。	
協議会 評価 <b>B</b>	根拠 回復期リハビリテーション病棟入院料2から1への施設基準の変更等により、医業収益は増加したが、材料費や委託費の増加により赤字となっている。今後は、設備の修繕費や備品購入費、人員確保に係る費用の増加が見込まれる中、給与比率の改善等効率的な運営に取り組む必要がある。	

④老人保健施設千束の事業運営の効率性は発揮されているか		※事業外収支は評価対象外
【参考指標】収支(P3)、経営分析結果(P6)など		
事業者 評価 <b>A</b>	根拠 平成28・29年と近隣の特別養護老人ホーム新規開設に伴う影響があったが、入所、通所リハ共に利用率は微増している。(入所28年度91.6%、29年度91.8%、通所28年度85.0%、29年度86.0%) また、加算対象となるサービスに可能な限り取り組み、短期集中リハビリテーション実施加算では、平成28年度比で1,200万円以上の加算収益増となっている。その他の加算対象となるサービスも行ったことで、平成28年度比で、4,000万円以上の収益増となった。これらのことから、事業運営の効率性は発揮されていたと認識している。	
協議会 評価 <b>A</b>	根拠 近隣に特別養護老人ホームが新規開設したが、入所及び通所リハ利用率は上昇している。また、給与費等の増加に伴い事業費は増加しているが、サービスの充実により増収を図っている。それにより、損益は黒字を維持しており、経営状況は良好であることから、効率的な運営が行われていると評価できる。	

(3) 計画性・改善状況等の評価

①前年度の運営協議会の意見を台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか	
【参考指標】平成27年度評価表(別紙)など	
事業者 評価 A	根拠 平成28年度の看護師の離職率が約23%であり改善が求められると意見があったが、新人研修プログラムの強化、職員面接の実施(1回/年)、研修や面接に対するフォローアップ等を行い、離職率が約20%まで低下した。 また、ストレスチェックや産業医との面談を実施し、職員のメンタルケアを図ることで、働きやすい職場環境の整備を進めている。 以上のような取組みを踏まえ、意見を運営に活かすことができたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 看護師の離職率については、研修の強化、面接の実施、それらに対するフォローアップにより、前年度から低下した。また、ストレスチェックの活用や、産業医との面談により、メンタルケアを図り、働きやすい職場環境の整備を進めていることから、運営協議会の意見を運営に活かしていると評価できる。

②利用者や区民の意見を取り入れ、台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか	
【参考指標】投書件数、主な意見と対応(P6)	
事業者 評価 A	根拠 待っている方への配慮としては、看護師が頻回に外来の見回りを行うようにした。また、外来診療案内掲示板を売店前等に複数設置することにより売店前のフリースペースでもお待ちいただけるよう配慮した。 ご意見箱(皆さまのお声)への投稿等様々な場所にて頂いた意見に対し一括管理を行い、ご意見の内容、それに対する改善・対応に関して掲示しており、意見の共有及び対応に関する取組みが出来ていると認識している。
協議会 評価 A	根拠 具合の悪い方の発見のための見回りや、掲示板設置により診察室前で待たなくてもいいようにする等、待つ方への配慮がなされている。利用者から寄せられた意見についても、管理、共有ができる体制を整えており、提案、助言に対しては、患者満足度が、入院部門では29年度4.76点(前年度4.75点)、外来部門では29年度4.81点(前年度4.79点)と向上しているため、適切に対応し改善されているとかがえる。よって、利用者の意見を運営に活かしていると評価できる。

③区立の病院・老人保健施設だからこそできる役割を果たしているか	
事業者 評価 A	根拠 台東病院では、『街かど健康教室』・『知って得する!在宅ケア教室』・『認知症カフェ』などの区民向けイベントが好評を博しているため今後も行う。また、病院においては、認知症、生活困窮者、住所不定者、虐待が疑われる社会的問題を抱えた患者等の受入、老健においては、他の施設での入所が難しいとされる在宅復帰が困難な利用者、医療依存度が高い利用者等の受入を行っている。病院と老健が併設していることによるスムーズな受入もできており、区立施設としての役割を果たしていると認識している。
協議会 評価 A	根拠 台東病院では、区民向けイベントを毎年定期的に開催しており、その取り組みは定着し好評を博している。また、他の医療機関・施設では対応が難しいとされるケースについての受入を行っており、区立の施設だからこそできる役割を果たしていると評価できる。

④計画性を持って、台東病院・老人保健施設千束を運営しているか	
事業者 評価 A	根拠 毎週の幹部会議や毎月の事業推進会議にて、運営状況の確認や課題の検討を行い、朝礼、研修会等で職員が病院のありかた、目指すべき方向を認識できるようにしている。また、多職種によるワークショップを行い、将来像や改善策を協議した結果を運営に取入れている。部門・部署毎では、年間目標の達成に向け進捗状況を管理しながら業務改善に取組み、褥瘡発生率の改善等に反映したと思われる。年度末の全部署参加の報告会にて評価・検証を行う等、計画的に施設を運営することができたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 各会議体の設置により、施設の課題や方向性について共通認識を持てる体制を整えている。また、ワークショップの実施により、職員の意見を運営に取り入れており、将来に向けた意思決定に職員が参画している。報告会において課題への対応を組織として情報共有することで、褥瘡発生率の改善等、業務改善につなげていることから、計画性を持って施設を運営していると評価できる。

## 5 総合評価等

### 【総合評価】

台東病院については、病床利用率及び在宅復帰率が堅調に推移しており、多職種による在宅復帰へ向けた支援体制も整えている。外来部門の紹介、逆紹介、退院前カンファレンス、CT・MRIの他院からの検査依頼について、それぞれ件数は増加しており、連携の強化にも取り組んでいることから、高齢者の慢性期医療を担う拠点病院として機能していると評価できる。

老健千束については、近隣の特別養護老人ホーム新規開設の影響を受けた前年度から在宅復帰率、回転率ともに改善し、加算も再算定することができた。共用スペースの利用等による多様なリハビリテーションの実施等施設も効率的に活用しており、在宅復帰に向けた入所施設として機能していると評価できる。

収支については、台東病院の医業収益は増加したが、材料費や委託費の増加により赤字となっている。一方、老健千束は給与費等の増加に伴い事業費は増加しているが、サービスの充実により増収を図ることで事業収益は黒字を維持している。また、施設全体では損益は黒字となっており、経営状況は概ね良好であると認められる。今後、台東病院においては、設備の修繕費や備品購入費の増加が見込まれる中、効率的な運営に取り組む必要がある。

その他、面接の実施や、ストレスチェック等によりメンタルケアを図ることでの働きやすい職場環境整備、利用者からの意見を取り入れた診察を待つ方への配慮、ワークショップ等を通じた職員の運営への参画等がなされており、計画的な運営を行っている。また、他の病院・施設では対応が困難な方の受入を行い、区立施設としての役割を果たしている。

今後とも、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、利用者や運営協議会等の意見を活かしながら、区や地域の医療機関等と連携して、質の高いサービスの提供を図ることが求められる。

### 【その他意見】

○在宅復帰率を高めながらも、空床が出ないような取り組みを行ってほしい。

○他の施設では対応が難しい事例について、受入のためのノウハウを区内関係機関にも広めてほしい。